

「ルール」

ヨハネ14:12~20

～あなたは何のルールに生きていますか？イエスさまの遺言！！～

私たちは、何か嫌なことがあるとすぐに人のせいにしてしまう…自己中心なところ、罪（的外れ）があります。だからイエスさまが十字架にかかれてこの罪を贖ってくれたのです。では、どんなルール・自分のルールで嫌なことなどを判断しているのでしょうか。光の速度・地球と月の距離・地球の傾き・自然の生態系など色々なルールがあります。これらがすべてきちんと機能する理由は、神さまが与えてくれた大切なルールをきちんと守っているからなのです。しかし私たち人間どうでしょう。私たち人間だけが神の意志に反した行動をとってしまっているのではないのでしょうか。「私は〇〇」と言って決めつけてしまったり、「みんなと一緒に…」と個性を無くしてしまったりしてしまうのです。私たちは光のように神さまのルールをひたすら守れているのでしょうか？聖書には「あなたがたは地の塩・世の光である！」（マタイ5:13・14）と書かれています。しかし私たちは日々の生活の中で右往左往してしまったり、他人（隣人）と比較して羨ましがったり落ち込んだり嫉妬してしまいます。神さまの前で「こう生きます！」と宣言しても挫折してしまうのです。だから私たちは神さまの前で「変えなければいけないものを変える」「変わってはいけないものを変えない」行動をとらなければいけません。そして、これらの行動をとらせないようにする最も怖いものは「人間の考え」です。私たち自身が悪いわけではありません。私たちは神の作品として“非常に良い”と創られました。ですから、私たち自身ではなく、私たちが作り上げてしまった自己中心な「考え・ルール」が良くないのです。それは、神様のルールではないからです。自分の価値観で人を裁いて最後には「あんな奴いなければいいのに」と人を排除してしまいます。これが「的外れ」、罪なのです。だれがこの罪をもたらしたのかと言えば最初の人間アダムとエバです。食べることを禁じられていた実を食べて原罪が生まれ自我が生まれ恥が生まれたのです。自我が生まれると「ごまかす」ことをしてしまいます。恥を感じると人のせいにしてしまいます。実際アダムとエバもそうでした。神さまに「どうして隠れるのか」と聞かれれば「裸だから」とごまかし、「どうして裸であることを知ったのか」と聞かれれば「あなたの創ったあの女が食べると言ったから」と人のせいになりました。ある詩人も「カゴの中のトリは外に恐れ、外のトリはカゴの中に恐れる」書いています。私たちの人生もそうです。隣の芝生が青く、羨ましく見えるのです。自分で作り上げたルールが自分を不足へ向かわせ、喜びを奪い、感謝できなくさせる方向へ持っていくのです。そしてこのルールは、たまたまその時に遭遇した発言や態度などの、まるで奇跡的な自分の過去の経験で決められどんどん進化していくのです。しかし神さまは絶対な方です。私たちを創造された時から私たちに対する計画・私たちの素晴らしさは一切変わっていないのです。「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」（ヘブル13:8）と書かれています。私たちは神さまが良しとされた姿が変わっていかなければいけません。神さまのルールで見て間違いがあれば悔い改めて方向転換していくことが大切なのです。それを阻むのが自分のルールです。私たちのにとって一番怖いのは、隣人でも悪魔でもなく自分のルールです。アダムは確かにエバに勧められて実を食べました。しかし食べると決断して食べたのはアダムの決断です。素直にごめんなさい、悔い改めができなかっただけなのです。ヨハネ14:15に「私を愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」と書かれています。私たちは神さまを愛していますよね。神さまを愛していれば神さまのルールを知っているはず。また、17節に「その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。」と書かれています。私のなかに生きているのは私ではなくて神さまです。私という素晴らしい存在を内側から神さまが神さまのルールで生かすから光の子として生きることができるのです。だから、なにかがあっても変わらない「地の塩、世の光」となることができるのです。そして、ヨハネ14:21~27でも同じ事を話されています。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えて下さったものは、みなそうである」（I コリ2:9）と聖書は言っています。でも私たちは、目で見えたものや耳で聞いたこと心に浮かんだことで神さまを考えようとします。だからイスカリオテでないユダは、ナショナリズムから考えた自分勝手なルールでイエスさまの姿を想像してヨハネ14:22のような質問をイエスさまにしたのです。自分勝手な価値観・自分のルールで物事を判断して失敗すると、自分だけではなく自分の後に続く人たちも傷つきます。だから、私たちがしなければいけないことは①**自分のルールを捨てる**です。自分のルールをもつことがルール違反です。私たちには、神さまが最初に創られた最高に素晴らしい姿に戻すという神さまのルールがあります。その最高に素晴らしい姿を壊している「謝らない」「人のせいにする」「逃げる」など自分のルールを捨てなければいけません。そしてこの自分のルールは育ってきた家庭にもルーツがあります。だから家系の裁ち切りのためにもお祈りしていきましょう。ヨハネ14:26・27にも書いてあります。聖書に書いてあることが神さまのルールで正しいことです。だから自分のルールと照らし合わせて違和感を感じたら素直に悪い部分を認め、良いものは受け継ぎ悪いものは捨てていきましょう。そして②**神さまのルールを知る**ことをしましょう。聖霊さまは私たちに神さまのルールを教えます。黙示3:18で「目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。」と語られています。御言葉を自分のルールで見てはいけません。神さまに祈って聞いてみてください。必ず神さまのルールを教えてもらえます。見せてもらえます。知ることは聞くことから始まります。ローマ10:17に「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです」とあります。だから私たちは神さまに聞かなければいけません。I コリ2:7~11を読んでください。人の考えたことのないもの…そこに目を向けなければいけません。だから神さまに相談していきましょう。そして聖書にある神さまのルールを知って身につけていきましょう。最後に③**神さまのルールを柱に！！**していきましょう。神さまのルールが柱で土台が愛です。土台に愛を据えなければどんなに素晴らしい神さまのルールもただのうるさいドラやシンバルでしかありません（I コリ13:1）。自分のルールは自分を守るためのルール、すなわち相手を罪に定める愛のないルールです。ヨハネ13:34・35を読んでください。互いに愛し合って訓練し合って愛を土台に家を建てあげていくと私たちの価値観が取り払われて神さまの素晴らしい家が建てあげられていきます。神さまの芳しい香りを放つクリスチャンに共になりましょう。（要約者：行司佳世）